

ふるさとポケットガイドブック

シリーズ①

根室 金刀比羅神社



ご案内します。どこより素敵なわたしたちのふるさと。

スケールの大きな自然で知られる根釧台地は、その地理的条件、

歴史的役割のうえに独特の文化、情緒をはぐくんできました。

歴史、伝統、そして人情も、実に味わい深い土地柄です。

この魅力を少しずつでもかたちにしたいと、

本シリーズの企画・制作をスタートさせました。

名所を巡りながら、力強く生きる人々の営み、

思いに触れていただくガイドブックです。

地元の方には、もう一度ふるさとに出会い、また好きになるきっかけに、

旅の方には、発見と感動への水先案内人となることを願って。

大地みらい信用金庫

創立100周年記念事業実行委員会

大地みらい基金

設立30周年記念事業実行委員会



～ふるさとの記憶をみらいへつなぐ～

INDEX

勇壮に、激しく、かつ肅々と…………… 03

祭り 金刀比羅神社例大祭
重量1.5トン。巨大神輿渡御…………… 05
全長1キロ。豪華絢爛な巡幸…………… 06
見逃せない四祭典区競演…………… 07
人を見る。感動が倍になる…………… 11

知る 祭り資料館
ここなら年中おみこしさんが
見られる「お祭り資料館」…………… 13
神輿大解剖…………… 14

歴史 金刀比羅神社歴史
由緒…………… 15
根室 金刀比羅神社のあゆみ…………… 16

高田屋嘉兵衛
北洋の開拓者は淡路島生まれ…………… 17
択捉航路を開拓…………… 18
ロシア相手に外交手腕を発揮…………… 18

歩く 境内案内
見どころを押さえて、
いざ、鎮守の森散策へ…………… 19

巡る 市民を支える神様たち
まだある根室の「こんぴらさん」と
市民を支える神様たち…………… 21

想う 北方領土の神々
いつか島に帰る日まで…………… 23

開運グッズ紹介…………… 24

How to 参拝…………… 24

根釧エリアマップ…………… 25

勇壮に、激しく、かつ肅々と

重さ1.5トン、神々しい光を放つ神輿の圧倒的存在感。

絵巻から飛び出したような行列、豪華さと迫力を競う山車。

祈りの魂はそのままに、時と共に洗練を増した神に捧げる3日間。

北海道三大祭りの一つ「こんびらさん」の例大祭。

お隣りが聞こえてきたら、根室の短い夏が盛りを迎えます。





重量1.5トン。

巨大神輿渡御

金刀比羅神社例大祭:8月9日、10日、11日(毎年)

「こんびらさん」のお祭りといえば「おみこしさん」。夏の陽光を受け金色に輝く、根室つ子が誇る美しい神輿です。市内巡幸の2日間、約120人の担ぎ手が2組に分かれ交替で、担ぎ手のプライドにかけて総重量1.5トンという重さを肉体と魂で引き受けます。調和する掛け声、担ぎ手一人ひとりが発する迫力に、思わず息をのみます。

神輿は10日昼に本宮を発ち同夜は御旅所に1泊、翌日本宮に戻りま

す。10日午後の御旅所着御、11日午前の御旅所発御も「こんびらさん」ならではの興味深いシーンに出会えるタイミング。「おみこしさん」を間近で拝むなら、御旅所に鎮座している間、また巡幸ルートに数カ所設けられた駐輿所(休憩所)へ。



全長1キロ。 豪華絢爛な巡幸

10日本祭の昼。厳かに本宮を発つ神輿渡御の行列は、奴行列を先頭に、獅子、稚児、猿田彦、雅楽寮、神職総代、神輿に続いて4つの祭典区の豪華絢爛な山車が笛太鼓、金棒、手古舞、子ども神輿と共に連なります。1000人も市民で構成される行列の全長はおよそ1km。厳かに歩を進める行列はやがて華やかに、豪壮にと表情を変えていきます。渡御の始めの独特な緊張感とその規模を見るなら、金刀比羅神社から坂を下ったあたりで出発を待ちましょう。





祭りに渦巻くとてもないエネルギーを堪能できるのが、一区、東部、三区、西部の四祭典区の競演です。各祭典区が毎年趣向を凝らす大規模な山車と、世代を越えて伝えられてきたお囃子や舞を披露し、競い合います。

御旅所のある緑町交差点では8月9日宵宮祭に四祭典区山

見逃せない四祭典区競演

車競演、10日本祭には先太鼓と金棒競演、自由演技披露が行われ、歩道からあふれんばかりの見物客が稽古のたまもの演技を堪能し、祭り気分が酔いれます。お囃子は祭典区それぞれに受け継がれてきた伝統。似た曲名があっても祭典区によって音色が違います。お囃子を聞き分ける、ちょっと難しいけれど“ツウの楽しみ方”です。

神輿渡御の道中でも獅子舞や手古舞が披露されます。時には交差点で2つの祭典区が山車そのものや先太鼓を接触寸前まで近づけ、それぞれの音色、リズムを力一杯奏でるシーンも。どちらも決して相手につられない、譲らない、見事な演奏をご堪能あれ。

根室 祭 金刀比羅神社例大祭



第一祭典区



東部祭典区



第三祭典区



西部祭典区



人を見る。 感動が倍になる

たとえば神輿渡御。所作や歩き方を間違えないよう緊張の面持ちで粛々と歩を進める子どもたち。役割を果たそうと真剣な彼らにふるさとを愛する心が育たないわけではないでしょう。根室には、地元を離れて暮らしていても「こんびらさん」のお祭りには必ず帰省するという若者がたくさんいます。



例大祭の命の水
北の勝「まつり」

金刀比羅神社例大祭に
合わせて発売される限定品

毎年、例大祭の1カ月くらい前に発売される「大吟醸まつり」（冷酒向け）。1887年（明治20）に誕生し、全国の日本酒ファンに名を知られる「北の勝」の本数限定品です。市内スーパー、酒店、コンビニで販売されます。売り切れ御免。

「北の勝」を生む碓氷勝三郎商店前は神輿渡御の駐輿所（休憩所）。通りを挟んで紅白の幕を張り、神輿の担ぎ手にお酒を振る舞います。担ぎ手が命の水でしばし休んでいる間、「おみこしさん」をすぐ近くで正面から拝むことができます。

碓氷勝三郎商店
（根室市常盤町1丁目6番地）





ここなら年中
おみこしさんが見られる

「お祭り資料館」

2006年(平成18)、創祀200年記念事業の一つとして社務所内につくられた資料館。およそ50㎡の室内中央に「おみこしさん」が鎮座し、壁を埋める祭りの写真や木製の獅子頭、1935年(昭和10)から70年間使われた神輿の鈴、山車の模型など有志により寄贈された展示物が、祭りの歴史と祭りにかける根室の人たちの熱い思いを伝えています。



金刀比羅神社 社務所内
【神輿殿・お祭り資料館】
〒087-0055 北海道根室市琴平町1丁目4番地
TEL:0153(23)4458

開館時間：午前8時～午後4時30分【入館無料】
※社務都合により、開館時間が変更になる場合があります。

大解剖

現在の神輿は1935年(昭和10)に京都で奉製、2006年(平成18)創祀200年を記念して京都で全面修復され、目を奪う輝きを蘇らせました。戦前戦後を通して様々な人々により担がれてきた神輿は、いまも「みこし会」等により一貫して人力奉担されています。

神輿



大鳥(鳳凰)

神輿の屋根の頂点のものは大鳥、蕨手のものは小鳥と呼ばれる。鳳凰は古来中国で、麒麟、亀、龍と共に四瑞の一つとして尊ばれた想像上の瑞鳥。



蕨手

屋根の四隅のわらびに似た飾り。



囲垣

鳥居に連なり胴を取り囲む。神聖な領域に巡らせる垣で、斎垣・威垣(いがき)とも書く。胴と囲垣の間には高欄が巡らされている。



環珞

ようらく。下がつているきらびやかな装飾。



飾り綱

お手綱、化粧綱とも呼ばれる豪華な綱。



鳥居、胴

神社の鳥居と同じ形状で作られた鳥居は前後左右4カ所。神輿の中心部、神様を祀る部分は胴と呼ばれる。



花棒、棒先金物

神輿の台座を貫通する左右の本棒の先端は花(鼻・先)と呼ばれ、ここを先頭に立ち担ぐのが担ぎ手の憧れ。



由緒

1806年(文化3)、北方漁業開発の祖・高田屋嘉兵衛が、漁業の守護神として金刀比羅大神をお祀りしたのが始まり。根室地方の開拓が進むとともに氏神として深い信仰を集めるようになり、現在も家内安全、子孫長久、漁業、殖産・商業の守護神として崇敬を集めています。

トリビア

「こんびら」の語源はサンスクリット語、ガンジス川にすむワニの姿をしたヒンズー教の水神「クンピーラ」といわれています。



御祭神

古来「こんびら様」として信仰を集める讃岐「金刀比羅宮」の御祭神・大物主神を主神に、事代主神、倉稲魂神の御三神が祀られています。

大物主神(おおものぬしのかみ)

日本神話に登場する神。国土開発や経営、平和と繁栄の神であり、はるか海のかなたから水面を照らしながらやってきたことから海の守護神としても信仰されています。万事を司り、すべての幸福幸運の縁を結ぶ、国の守護神である一方で、祟りもなす強力な神です。

事代主神(ことしろぬしのかみ)

釣り好きの「えびす様」として、海の神・商業の神として信仰されています。託宣を司る神。

倉稲魂神(うかのみたまのかみ)

「お稲荷さん」として広く信仰されている穀物の神。「うか」は穀物・食物の意味です。

根室 金刀比羅神社のあゆみ

文化3年(1806年)	創祀。漁場請負人高田屋嘉兵衛、松ヶ枝町に祀宇を建立し金刀比羅大神を奉斎
明治6年(1873年)	開拓使の要請により本町へ遷座
明治10年(1877年)	根室一円の鎮守産土神として開拓使庁の認可を得る
明治14年(1881年)	琴平町(現在地)へ遷座し、社殿を造営
明治21年(1888年)	神輿新造、初の神輿渡御を行う
明治33年(1900年)	御旅所新設、神輿市内に1泊する
明治39年(1906年)	社殿造営。神明造社殿の造営及び境内整備。旧神殿で花咲港金刀比羅神社創立
大正8年(1919年)	例祭日を8月9、10、11日に確定
昭和10年(1935年)	神輿及神幸祭具を新造(現神輿)
昭和11年(1936年)	天皇陛下行幸
昭和17年(1942年)	新社殿を総檜材にて造営(現社殿)
昭和61年(1986年)	創祀180年。高田屋嘉兵衛銅像を建立
平成13年(2001年)	神門内に授与所を新設
平成18年(2006年)	創祀200年。社務所及神輿殿・お祭り資料館を新築。神輿全面修復
平成24年(2012年)	緑町交差点に常設の御旅所を新築



こんぴらさんの創祀者

幕末の海商、高田屋嘉兵衛

社殿の西側、根室港と弁天島を見守るように立つのは創祀者・高田屋嘉兵衛。北方漁業開発の祖とたたえられる幕末の海の男は、見事な手腕を発揮した日露修好の祖でもありました。

●境内にある高田屋嘉兵衛銅像

1986年(昭和61)、創祀180年記念事業の一つとして、その功績をたたえ、根室港と弁天島を望む場所に建立されました。弁天島、赤い屋根の小さなお社「市杵島神社」も、高田屋嘉兵衛が大漁を折って1806年(文化3)建立、創祀したものです。

北洋の開拓者は淡路島生まれ

高田屋嘉兵衛は1769年(明和6)淡路島に生まれました。幼い頃から海と船を愛し、優秀な船乗りとなった嘉兵衛は28歳で自前の船を建造、小さな漁村だった箱館(函館)を商売の拠点に海商として頭角を現し、1799年(寛政11)には幕府より択捉島開発

の命を受けます。前年、幕府は択捉島に「大日本恵土呂府」の木標を建て、1799年には東蝦夷と南千島諸島を直轄地として東蝦夷地の領土化を着々と進める中、南下してくるロシアに対する国防対策としても択捉島の開発は急務でした。

択捉航路を開拓

開発に不可欠だったのは、潮流が速く危険な水域である国後一択捉間

の安全な航路開拓です。嘉兵衛は国後島東端アトイヤの山に20日間登り



展望台より弁天島を望む

続け3筋の潮流を目で確認、潮流の衝突を迂回すれば安全に航行できると考え、幕府の御用船・宜温丸で自ら

試みて航路を発見しました。

大量の交易品や人の行き来が可能となった択捉島には翌年(寛政12年)択捉場所が開設され、17カ所の漁場を開発した嘉兵衛は、1810年(文化7)に場所請負人*となりました。

嘉兵衛はこの間、39歳で金刀比羅神社を創祀しています。

※場所請負人

松前藩が商場(アイヌ民族との交易地域)や漁場の経営を商人に代行させ、一定の運上金を得ていた制度。

ロシア相手に外交手腕を発揮

北方の開拓者、豪商としての才覚に加えて嘉兵衛が発揮したのは機転、交渉力でした。当時、ロシアはカムチャツカを経て千島列島へ進出、日露関係は複雑化しつつありました。1811年ロシア皇帝艦ディアナ号艦長ゴローニンが国後島で警備隊に捕らえられるという事件が発生。翌年、ディアナ号は偶然近くを航海中だった嘉兵衛をカムチャツカへ連行します。しかし嘉兵衛は囚われの身となってもロシア人に敬意を表されるほど豪胆沈着だったといえます。嘉兵衛は現地でロシア語を学び、

一冬かけて築いたディアナ号副艦長リコルドとの深い信頼関係で、日露双方が納得いく解決へ導きました。ゴローニンは1813年に釈放、こじれていた日露関係は嘉兵衛により平和的に解きほぐされました。嘉兵衛は日露修好の先駆けだったのです。



市杵島神社

【司馬遼太郎講演】から

嘉兵衛を主人公に長編『菜の花の沖』を著した司馬遼太郎は、その講演で、嘉兵衛を江戸時代を通じていちばん偉大な人物、「それも二番目が思いつかないくらい」「いま生きていても、世界のどんな舞台でも通用できる人」と評価しています。「すぐれた人間とは魂のきれいな人間」とし、ゴローニン事件でも「ロシア人は高田屋嘉兵衛の魂を信用して、彼に全権を一任」したとたたえています。(1985年5月11日・兵庫県洲本市市民会館/朝日文庫『司馬遼太郎全講演(3)』より)



境内案内図

東神門の横にある「絵図」。散策前に全体を把握しておくのがおすすめです。



正神門

1960年(昭和35)建立。額は当時の四国・金刀比羅宮、琴陵光重宮司の揮毫です。寄進者佐々木重太郎氏に因み「佐重門」と名付けられています。



社務所

創祀200年の2006年(平成18)に新築されました。おふだ、おみくじ、お守り、絵馬などはこちらへ。「神輿殿・お祭り資料館」が併設され、バリアフリー・トイレもあります。



神馬(しんめ)像

創祀170年の1976年(昭和51)に奉られた唐金鑄銅、躍動感あふれる神馬像です。

見どころを押さえて、

いざ、鎮守の森散策へ。



石灯籠

1855年(安政2)藤野家より奉納された、現存する境内最古の建立物です。



額 殿

1926年(大正15)建立。散策の休憩はこのベンチと、続く展望台で。近年はパワースポットとしてひそかな人気を呼んでいる場所です。



額殿「敬神」

額殿には、奉納された揮毫の額が複数展示されています。こちらは奉納当時(昭和11年)海軍中将、後に海軍大臣、第37代内閣総理大臣を歴任した米内光政の奉納額です。

現在の社殿は、1942年(昭和17)に総檜材にて造営されました。入母屋流造の屋根は創祀200年記念事業の一つとして2003年(平成15)に銅板に葺き替えられました。



まだある根室の「こんぴらさん」と市民を支える神様たち

根室金刀比羅神社の旧神殿を受け、地元住民の遙拝所として創立された花咲港金刀比羅神社や御分霊が奉斎された瑛瑤金刀比羅神社、開拓者の精神力を支えた落石金刀比羅神社はじめ、全23社が根室金刀比羅神社の兼務神社として市内に点在しています。



花咲港
金刀比羅神社

はなさきみなとことひらじんじや

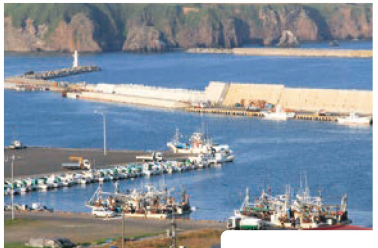
根室市花咲港82番地1

御祭神 大物主神、事代主神、倉稲魂神

例祭日 10月10日



1906年(明治39)、根室金刀比羅神社より旧社殿を受け、遙拝所として創立。1960年(昭和35)新社殿造営。



落石
金刀比羅神社

おちいしことひらじんじや

根室市落石東287番地5

御祭神 大物主神、事代主神、倉稲魂神

例祭日 9月20日



瑛瑤
金刀比羅神社

ごようまいことひらじんじや

根室市瑛瑤1丁目128番地

御祭神 大物主神、事代主神、倉稲魂神

例祭日 10月3日



1922年(大正11)、地区住民神社を創立し、根室金刀比羅神社より御分霊を請い奉斎。1967年(昭和42)社殿造営。

開拓の時代から言語を絶する自然の厳しさも、天からの祝福、恩恵も身をもって知る根室の人々の深い敬神の念は、ふるさとの歴史の中でたくさんの神社を建立してきました。



穂香金刀比羅神社

ほにおいことひらじんじや

根室市穂香26番地

御祭神

金刀比羅大神、弁財尊天

例祭日:6月10日

弁天島 市杵島神社

べんでんしまいちきしまじんじや

根室市弁天島

御祭神

市杵島比賣神、多紀理比賣神、多紀津比賣神

例祭日:9月第2日曜

幌茂尻稲荷神社

ほろもしりいなりじんじや

根室市幌茂尻48番地4

御祭神

稲荷大明神、金刀比羅大神

例祭日:6月16日

厚別稲荷神社

あつべついなりじんじや

根室市東梅146番地2

御祭神

稲荷大明神

例祭日:6月16日

和田神社

わだじんじや

根室市東和田977番地

御祭神

天照皇太神、豊受大神、八幡大神

例祭日:6月15日

根室出雲神社

ねむろいずもじんじや

根室市定基町4丁目5番地

御祭神

大國主神

例祭日:6月15日

巖島神社

いづくまじんじや

根室市温根沼213番地

御祭神

市杵島姫神、田心姫神、湍津姫神

例祭日:6月16日

三吉神社

みやじんじや

根室市花園町2丁目17番地

御祭神

大名持神、少彦名神、三吉大神

例祭日:9月17日

華盛稲荷神社

はなもりいなりじんじや

根室市昆布盛

御祭神

倉稲魂大神

例祭日:9月20日

浜松八幡神社

はままつはちまんじんじや

根室市浜松

御祭神

八幡大神

例祭日:9月20日

齒舞神社

はばまいじんじや

根室市齒舞3丁目89番地

御祭神

天照皇太神、豊受大神、八幡大神

例祭日:10月3日

別当賀神社

べつとうがじんじや

根室市別当賀255番地

御祭神

三吉大神、大山祇神、御嶽大神、金刀比羅大神

例祭日:9月12日

長節八幡神社

ちようはしはちまんじんじや

根室市長節

御祭神

八幡大神

例祭日:9月20日

納沙布金刀比羅神社

のさぶごことひらじんじや

根室市納沙布

御祭神

金刀比羅大神、龍王神

例祭日:10月3日

友知稲荷神社

ともしりいなりじんじや

根室市友知

御祭神

稲荷大明神

例祭日:10月3日

双沖金刀比羅神社

ふたおきごことひらじんじや

根室市双沖

御祭神

金刀比羅大神

例祭日:10月3日

厚床蒼前神社

あつとこそうぜんじんじや

根室市厚床

御祭神

保食大神

例祭日:9月第1日曜

走古丹稲荷神社

はしりこたんいなりじんじや

別海町走古丹

御祭神

倉稲魂大神

例祭日:7月3日

初田牛神社

はつたうしじんじや

根室市初田牛

御祭神

大地主神、保食大神、金刀比羅大神

例祭日:8月最終日曜

豊里神社

とよさとじんじや

根室市豊里

御祭神

大山祇神

例祭日:10月2日



いつか島に帰る日まで

納沙布岬にある「四島(しま)のかけ橋」

戦前、北方四島(国後島、択捉島、色丹島、歯舞群島)には1万7000人を超える島民が暮らしていました。しかし戦後のソ連(現ロシア)の占拠によって1947年(昭和22)年7月までにすべての島民が島を追われました。着の身着のままの強制退去でしたが、信仰心まで奪うことはできませんでした。根室金刀比羅神社には、氏子たちによって混乱のさなかひそかに持ち出され、樺太経由の過酷な道中も身を挺して守り通され、北海道へ渡ってきた11社の御神体が預けられています。いつか島に帰る日まで、各社の例祭日には根室金刀比羅神社で祭典が行われています。

◎預けられている北方四島の神社 ※()は例祭日

- 国後島** 老登山神社(6月第1日曜)
近布内神社(6月28日)
東沸神社(不定)
- 水晶島** 金刀比羅神社(9月23日)
市杵島神社(9月23日)
- 多楽島** 市杵島神社(6月最終日曜)
金刀比羅神社(9月23日)
大海竜王神社(不定)
- 志発島** 金刀比羅神社(10月体育の日)
西浦泊稻荷神社(10月不定)
- 色丹島** 色丹神社(10月第2日曜)



貝殻島灯台

開運グッズ

根室金刀比羅神社に詣てたらここでしか手に入らない開運グッズでパワーを持ち帰りましょう。大切な人へのおみやげにもおすすめ。もちろんおみくじも忘れずに。



恋みくじ



一年安鯛みくじ



お守り

海上安全御守



幸せ福ろう守



ほけ封じ守り

※社務所窓口で頒布しています。

神社参拝の基本マナー

How to 参拝

作法にのっとり、さもちよく参拝しましょう。

1 鳥居をくぐる

鳥居の中央を避けて、いずれかの柱に寄って立ち止まって一礼。

2 参道を歩く

参道中央は神様の通る道。道の中央は避けて、端を歩きます。

3 手水(ちょうず)舎で手と口を清める

右手で柄杓(ひしゃく)をもち左手をすすぐ→柄杓を左手でもち右手をすすぐ→柄杓を右手でもち、柄杓の水を左のひらで受けて口をすすぐ→左手をすすぐ→柄杓を縦にして上から落ちる水で柄を洗う

4 神前で

神前の中央は避けて立ち、小さく一礼してお賽銭を静かに賽銭箱へ入れる。鈴を鳴らし、二礼二拍手一礼(腰を90度折って2回お辞儀→2回柏手を打つ→お辞儀1回)。

※これは一般的な作法で、神社によっては異なることもあります。



御神輿渡御巡路

- 8月10日
- 8月11日
- 8月10日駐輿所
- 8月11日駐輿所

神輿が一晩泊まる御旅所のある交差点。山車の競演や、演技披露はここ。御旅所前の通りには露店が並ぶ。10日午後の着御、11日の発御もぜひ見たい。

10日午後、「おみこしさん」をすぐ近くで真正面から拝むなら、ここ。碓氷勝三郎商店前。



おすすめスポット!
10分程度の休憩を取る駐輿所。道幅も広く、交通規制が敷かれているのでゆっくり見られる。

おすすめスポット!
10日、金刀比羅神社を出発し坂を下りてくる行列を、先頭から最後尾まですべて見るのにおすすめの場所。みなと湯、郵便局付近は目に納まる行列の範囲が広く、規模を楽しめる。11日は神社に戻る神様をお迎えて。



※年により、若干変更になる場合があります。根室金刀比羅神社ホームページ、または根室市観光協会(電話:0153・24・3104)でご確認ください。

境内案内図



納沙布岬

2016年3月発行

 **大地みらい 信用金庫**

〒087-8650 北海道根室市梅ヶ枝町3丁目15番地
TEL (0153) 24-4101

一般社団法人

大地みらい 基金

TEL (0153) 24-4104